

日本の福祉を守ろう

全国社会福祉法人政治連盟 セミナーに330人

日本の福祉を語る」をテーマに、全国社会福祉法人政治連盟主催するミレニアムセミナーが7日、東京・灘尾ホールで開かれ、全国から330人が参加した。全国社会福祉政治連盟（影格会長）との共催。社会福祉推進議員連盟会長も務める衛藤一・首相補佐官が登壇し、社会福祉法人への期待について話した。衛藤議員は7月、3期目を目指して参議院議員選挙全比例代表に立候補する予定で、両連盟は10万筆の署名を集めることを呼び掛けた。

（鮫島隆紘）



社福法人への期待について話す衛藤氏

開会にあたり、櫛田匠・全国社会福祉法人政治連盟会長は衛藤氏について「日本の福祉を守るために必要な政治家。また国政に送り出せるよう一人ひとりが行動してほしい」と呼び掛け、選挙前までに10万筆の署名を集める考えを示した。

度子どもとの心中を考えたか。皆、最初から明るいわけじゃない」と言われ、政治家として福祉に取り組む決意をしたという。

1990年に衆議院議員に初当選した衛藤氏は、厚生労働委員長や厚労副大臣などを歴任。参院議員に転じた。2012年から首相補佐官に任命された。

「見える化」すべきと持論を展開した。また、社会福祉法人が地域の社協へ払う会費を増額するよう求め「団結し、物申し、行動する社会福祉法人を目指してほしい」と要請した。

衛藤氏は、大分市議の頃、障害のある子どもの親の会に関わったときのエピソードを披露した。母親から「何

なく18年度にプラス回復した。「やはり福祉分野で団結して主張しなければと思う」と振り返った。

「社会福祉法人が放逐され、高齢者福祉全体が崩れかけた。民間参入はよい面もあるが、根幹は守らないといけ

ない」と述べた。15年に介護報酬が大減額された際は、「社会福祉法人の多くが赤字になる」と、直り接、麻生太郎・財務大臣に訴えたところ「そんなことはない」と反論されたが、その結果、高齢者施設を運営する社会福祉法人の3分の1が赤字になり、よう

「見える化」すべきと持論を展開した。また、社会福祉法人が地域の社協へ払う会費を増額するよう求め「団結し、物申し、行動する社会福祉法人を目指してほしい」と要請した。